

吉の阿南を巡る

く加茂宮ノ前・若杉山遺跡く

今、加茂谷地域にある加茂宮ノ前遺跡と若杉山遺跡が、その遺跡が持つ特徴で全国から注目を集めています。遺跡は私たちの祖先が生き命を繋いできた「証」です。秘書広報課のロマイエ有希が遺跡を巡り、阿南人の原点を辿りました。

加茂宮ノ前遺跡は、加茂町大西・宮ノ前で発掘された集落遺跡です。那賀川河川改修事業（加茂堤防）の事前調査として、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが平成28年8月

から平成31年3月まで発掘調査を進めています。今回の調査では弥生時代中期末から古墳時代前期初頭にかけての竪穴住居を中心とした集落が確認されました。その中からは鉄器の製作を行うための施設である鍛冶炉や加工のために使用した道具や製品なども出土しました。初期の鉄器製作と利用を考える上で貴重な成果となっています。県埋蔵文化財センター 専門研究員の田川 憲さんに本遺跡の持つ特徴や意義などについてお話を伺いました。（写真提供：県埋蔵文化財センター）



加茂宮ノ前遺跡の発掘調査のようす。弥生時代～古墳時代の集落の遺構では、竪穴住居40棟あまりと土坑や溝、柱穴などを発見し、当該期の県下でも有数の大規模な集落であることがわかりました。

加茂宮ノ前遺跡



秘書広報課
ロマイエ有希

ロマイエ 加茂宮ノ前遺跡はいつの時代の集落遺跡になるのですか。



県埋蔵文化財センター
田川 憲さん

各時代を代表する遺跡

田川 平成28年度からの発掘調査で確認されたのは、①鎌倉時代～室町時代、②弥生時代中期末～古墳時代前期初頭（弥生時代中期末～弥生時代後期初頭（約2,050年前～1,950年前）、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭（約1,800年前～1,700年前）に細分が可能）、③縄文時代後期の大きく3つの時代になります。いずれの時代も集落を形成し人々が「くらし」を営んでいました。発掘調査の結果、竪穴住居や溝、土坑、柱穴といった遺構が多数確認されました。それら遺構からの出土遺物には各時代を特徴付ける土器や石器、装飾品（鎌倉時代～室町時代の鏡や弥生時代～古墳時代の勾玉やガラス小玉など）、鉄製品などが出土し、県内でも各時代を代表する有数の遺跡であることがわかりました。

ロマイエ 赤色顔料の水銀朱に関わる遺物も出ているようですが、朱に関して、この集落ではどのような作業をしていたと考えられますか。

水銀朱は各地に運ばれた

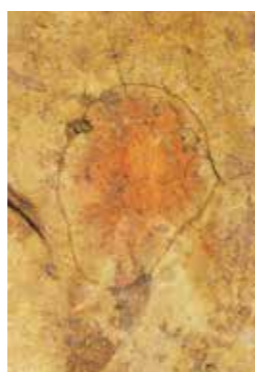
田川 朱に関わる遺物としては、砂岩製の石杵や石臼と水銀朱の原材料となる辰砂が竪穴住居やその他の遺構などから出土しています。辰砂から水銀朱を取り出し、それを石杵と石臼という道具を用いて粉末にする作業（＝水銀朱の精製）を行っていたと考えられます。水銀朱の精製に関わる遺物は、調査地点の中程に集中して出土する部分もあり、水銀朱の生産を行う作業場はある程度まとまって生産していたと考えられます。粉末になった水銀朱は祭祀に使う土器や古墳の石室などを赤く塗るための顔料（絵の具）として使われていました。まだ発掘途中ですがこれらの遺物は総数で千点を超えるほど飛び抜けた出土量を誇り、それほどの量の水銀朱を加茂宮ノ前遺跡の集落で生産していたのだといえます。集落内で生産された水銀朱は各地に運ばれ（近隣では徳島市矢野遺跡や名東遺跡、板野町黒谷川郡頭遺跡など）、消費されていたと考えられます。



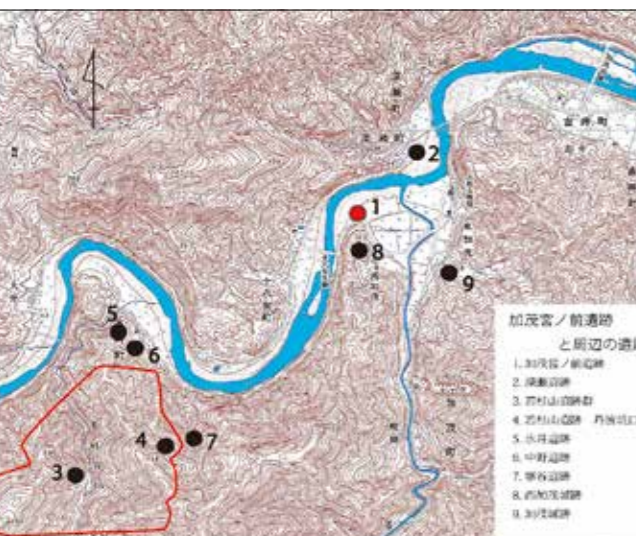
住居の掘削作業風景



辰砂を精製した石杵



竪穴住居鍛冶炉



加茂宮ノ前遺跡(1)の南西には、辰砂を採掘し水銀朱の加工を行っていた若杉山遺跡(3)があり、水銀朱の搬出は当該期の流通を知る上で重要です。また、那賀川の北東側対岸には縄文時代～中世に至る集落遺跡である深瀬遺跡(2)があり、水銀朱が付着した弥生時代の石杵・石皿が出土していて、本遺跡との関連が注目されます。

ロマイエ 朱以外にも鉄に関する遺物などが見つかっています。出土品からこの集落に住んでいた弥生人は何をしていたと考えられますか。

最先端技術の鉄器を作製

田川 弥生時代中期末～後期初頭（約2,050～1,950年前）の集落では20棟の竪穴住居のうち10棟の竪穴住居から鍛冶炉が確認されています。鍛冶炉は竪穴住居の床面に直径30cmほどの範囲に直接木炭を敷き詰め、そこで竈（強制送風装置）を用いて原料の鉄を熱することで鍛冶を行っていたようです。これら鍛冶炉をもつ竪穴住居では水銀朱の精製に使用した石杵・石臼・辰砂のほか、石鏃（石の矢じり）などの石器とそのつくりかす、糸を紡ぐ道具である紡錘車（ぼうすいしや）が出土していることから、この建物が鉄器、水銀朱、石器、紡織などの製品を多岐にわたって作成していた場である可能性が考えられます。背景の一つには水銀朱の精製・大量生産を行うことで、搬出の流通ルートが確立されていたのでしよう、その流通ネットワークを生かして当時の最先端技術である鉄器の作製方法と原料をいち早く導入できたのでしよう。

ロマイエ 古代人にとって朱はどのような存在だったのでしょうか。

魏志倭人伝に記された!?

高島 赤い色は血液と同じで神聖な色と考えられていました。古くから土器や土製品、木製品などに塗られ、人体そのものを彩色することもありました。また、人を墓に埋葬する時に、亡きがらに上から振りかけたりして使われてきました。水銀朱に死者の再生を願う思いが込められたのかもしれませんが。日本では弥生時代の終わり頃から古墳時代の初めにかけて、墳丘墓や古墳の石室に辰砂が頻繁に使われるようになり、なかには200kgにもおよぶ大量の辰砂が使われた例もありました。若杉山遺跡の操業時期はちょうどこの頃で、若杉山遺跡の辰砂が全国に配られていたのではないかと思います。また、中国の歴史書魏志倭人伝に「其山有丹」と記された箇所があるのですが、この山が若杉山遺跡だとしたらとても楽しくですね。

地域資源として生かす

ロマイエ なるほど。阿南市にとって若杉山遺跡は、非常に重要で、誇り高い遺跡だということが分かりました。今後、若杉山遺跡はどのように市民や一般の人に公開していくことが望めますか。

高島 大きく分けて2つの方向性が考えられます。1つは、若杉山遺跡だけでなくミカンの段々畑や遍路道、石造物、若杉谷の滝、断層によるチャートの鏡面、石灰岩やチャートの露頭、鍾乳洞など景観そのものも含めて、若杉谷一帯を一つの公園のように見立てることです。谷の入り口にビジターセンターを置いて、谷や遺跡は徒歩で歩いてもらうようにして、きめ細かく案内するなどソフト面の充実を図ることが望めます。



若杉山遺跡の遠景
(写真提供：徳島県立博物館)

もう1つは水井町全体を辰砂、水銀の産地として位置づけることです。弥生時代や古墳時代の若杉山遺跡、中野遺跡、寒谷遺跡ばかりでなく、明治以降、近代の由岐水銀鉱山（丹波坑口や佐々木坑口など）を併せて紹介するべきです。このどちらの方向性を実現するにも地元の方々の協力は欠かせないことだと思いますのでどうかよろしく願いいたします。

広報あなん「広報あなん動画版」

市政について広報番組を制作し、ケーブルテレビ11ch（ケーブルテレビあなん、県南テレビ）やYouTubeで放映しています。

12月から、第5回「古の阿南を辿る～加茂宮ノ前・若杉山遺跡～」を放映予定。



遺跡や発掘調査のようすを映像でご紹介します。

ただ今、編集中 乞うご期待!

問い合わせは 秘書広報課（☎22-1110）へ

加茂谷の遺跡をわかりやすく解説



加茂宮ノ前遺跡と若杉山遺跡について理解を深める講演会「長国の埋蔵文化財(伍) 長国の朱in阿南」が10月14日に文化会館で行われ、約70人が参加しました。講演会では、“朱”をテーマにそれぞれの遺跡の性格や時代背景についてわかりやすく解説。参加した佐藤理紗子さん（鳴門教育大学付属中学校2年）は「遺跡で鉄を作る鍛冶炉も見つかったことに驚きました」と話していました。また、同内容の展示会が、文化会館ラウンジで開催され、発掘調査で出土した遺物が多数展示されました。

若杉山遺跡

若杉山遺跡は、太龍寺の北側、若杉山の標高140〜250メートルの山腹斜面に広がる遺跡です。遺跡からは、石杵・石臼や辰砂原石が大量に見つかっています。辰砂は、赤色顔料「水銀朱」の原料で、古墳時代前期などの埋葬に大量に使用されていることから、古墳時代の広範囲な流通を知る上でも重要な遺跡です。平成29年度から国史跡指定をめざして、県教育委員会と市が合同で発掘調査を進めています。若杉山遺跡調査検討委員会委員長の高島芳弘さんに本遺跡の調査状況や活用などについてお話を伺いました。



徳島県博物館の若杉山遺跡発掘調査（昭和59年）
(写真提供：徳島県立博物館)



ロマイエ ずばり、若杉山遺跡はどんな遺跡ですか。

弥生時代の終わり頃 日本で唯一の辰砂採掘遺跡



若杉山遺跡調査検討委員会
高島 芳弘さん



採掘坑跡の内部



若杉山遺跡散布石器



辰砂原石と水銀朱

高島 若杉山遺跡は、弥生時代の終わり頃から古墳時代の初めにかけての辰砂（水銀朱の原料）の採掘遺跡で、この時期では日本で唯一の遺跡です。今、段々畑となっているこの場所は、まさに弥生時代の終わり頃には、石杵と石臼を使って叩いたり、潰したり、すったりして、辰砂原石の加工を行っていた場所でした。

最近の調査で、若杉山遺跡は北隣の沢まで広がっていることが明らかとなりました。北の沢はチャート（岩石名）のズリ場^註で、この最上部にある巨大なチャートの岩から、辰砂の採掘坑が発見されました。この場所も含めて、遺跡全体での辰砂の採掘から水銀朱への加工までの工程もはっきりとしてきました。水銀朱が精製されていた加茂宮ノ前遺跡との関連が目撃されます。

^註 採掘によって生じた破砕礫が堆積した場所